

であるならば國民道德は國民の根本である、而してそれは吾等の深き自覺に於てのみ許さるゝことである。吾等の自覺を外より抗束して徒らに傳統的思想を強いんとすること程吾等の心情の發展を傷ふものはない。かくしてなほ國民たらしめんとするならば大なる誤謬と云はねばならない。生命なく發展なく何等の敬愛なき國民道德のために、只そのものゝために吾等を忠實なる國民たらしめんと懲罰するものは已に本末を謬れるもの、これより無意義なるはない。近來ともすれば名のための國民道德を提唱して世の所謂良き子とならんとするもの多き中に博士の如く眞實の一路に立たれ深く人性自然の心情に汲み入つて、仁義の根本義より國民の自覺に及び人格の敬愛と理性の尊嚴とを説かるゝあるは多大なる感謝と云はねばならぬ。「普通への復歸と報謝の生活」は博士が數年來の論文を集められ、普通への復歸、反始報謝の生活、道德と宗教との關係、宋の教學に就いての四篇に分類せられたもので、孰れも博士獨特の立場よりなるもの、文簡なれど意深く理の皮相を離れて眞隨に徹し讀み行くまゝにしみじみと論され懇ろに導かるゝ心地する。わけても「感謝の無限」はかつて本誌上に「心情の無限」と題して表はされたものであるが再讀すればまた自らなる妙趣の津々として湧くを覺ゆる。蓋し博士の報謝の思念は博士の宗教道德に立つて甬めて會得すべきもの、其處に博士の説かるゝ

ものが彼の國民道學者流を超脱して無限の新味を藏する所以であらう。國民道德の眞諦に對して疑竇あるもの、國民道德に關して無關心なるものゝ、良き讀ものなることを嬉しく思ふのである。卷末に精細なる索引あり、定價金貳圓東京市牛込區新小川町三ノ十九 株式會社日本社發行（新臺理作）

彙 報

京都哲學會秋季公開講演會

十月廿四日（日）午後一時半より京大法學部第一教室にて開催左の講演を行へり。

一、基督教修道院の宗教思想

マスター、オブ、アーツ

日野 眞澄君

一、教育の基礎としての自我

文學 博士

吉田 熊次君

右終了後學生集會場にて晩餐會を催し主賓吉田日野兩氏の外多數會員參集、八時半散す。

教育學會例會

十月廿八日午後六時より學生集會場にて例會を開き左の講演あり

哲學研究 第五十七號

F. Percy Nunn - Education its Data and First Principle.

文學士 伊藤 猷典君

右著書の梗概の紹介及簡單なる批評あり、後に Sein と Sollen の問題につき會員の間に論議起り近來稀に見る活氣を呈せり。

寄贈書籍雜誌

華嚴經要義

京都 脇谷謙 著
興教書院發行

華嚴學綱要

東京 齋藤唯信 著
丙午出版社

倫理學概論

東京 荻原擴 著
寶文館發行

自我偈俗解

東京 橘泰善 講述
寶文館發行

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、
六條學報、文化運動、學校教育、教育、内外教育評論、教育學術
界、教育界、教育研究、教育時論、日華公論、